

国際シンポジウム2022

テーマ：自然活用の河川と水辺再生の米国での現状と気仙地方

6月5日(日)

14:00~16:00
大船渡市リアスホール
マルチスペース

入場
無料

本シンポジウムの様子を
オンライン配信します
<https://youtu.be/q6EtdkCGm24>



デニス・ウィグハム氏
スミソニアン環境研究所 (SERC) 上席植物学者
北米ラン保全センター 初代所長



ガブリエル・コヒー氏
メリーランド州政府自然資源省
環境修復・回復事務所 ディレクター



ライアン・キング氏
テキサス州 ベイラー大学
生物学部教授・大学院ディレクター



クリス・ビクラフト氏
アンダーウッド・アンド・アソシエーツ社



キース・ビンステッド氏
アンダーウッド・アンド・アソシエーツ社



小松正之氏
一般社団法人生態系総合研究所
代表理事

チェサピーク湾と気仙地方・大船渡湾

チェサピーク湾とは

チェサピーク湾はアメリカ国内でもっとも貴重な自然体系を持つ湾です。一帯に広がる海、川、野生の動植物などの自然美は住民の自慢であり、湾内の公園、海洋博物館、歴史地区などのスポットは旅行先としても人気の高い場所となっています。

将来のまちづくり、産業づくり

規模は違いますが、自然豊かな環境や山々が湾を取り囲む気仙地方は、チェサピーク湾とよく似ています。地域の80%を森林に囲まれた気仙地方でも、森林資源や自然生態系の活用が欠かせず、一般の関心を引きつける情報と魅力の発信のためにも、チェサピーク湾における世界最先端の研究に学ぶことが重要です。



Map data ©2022 Google

【共催】一般社団法人生態系総合研究所 一般財団法人鹿島平和研究所

【後援】大船渡市／東海新報社／NPO 法人日本ビオトープ協会／陸前高田市 【協力】NPO 法人環境パートナーシップいわて

問い合わせ先：生態系総合研究所 広報担当 中村 (nakamura@ierj.jp) / 阿佐谷 (jin@unga.jp)



デニス・ウィグハム氏

スミソニアン環境研究所 (SERC) 首席植物学者
北米ラン保全センター 初代所長

専門分野は植物生態学。世界中の森林、野原、湿地を訪れ、ランやつる植物、湿地で生育する種、外来種などの森林地帯の草本の研究や熱帯地域、温帯地域、亜寒帯地域の森林を研究。近年、アラスカの上流河川における若齢サケの生息地に関連した湿地の役割、ランの生態と保全、米国全土に急増している外来湿地帯種の生態に焦点を当てている。

スミソニアン環境研究所

The Smithsonian Environmental Research Center/SERC
世界有数の環境研究所で、米国最大のチェサピーク湾河口域に2,650エーカーの広大な土地と16マイルにわたる保全海岸線を所有する。毒性化学物質、水質、外来種の侵入、土地の利用、漁業、気候変動など環境に影響を及ぼす最も緊急な問題解決に取り組み、米国全土、そして世界中の研究と教育分野において指導的役割を果たしている。



ガブリエル・コヒー氏

メリーランド州政府自然資源省
環境修復・回復事務所 ディレクター

チェサピーク湾ならびに沿岸地域の環境修復に関する資金提供、動植物生息地の保全、環境修復や沿岸政策を担当。州政府の取り組みにおいて、生態系の回復と保全の優先事項と機会について専門家と協力関係者の間でまとめ、主導する立場にある。自然をベースにした環境への負荷が少ない環境修復を通して、熱意を持って環境保全・修復に取り組んでいる。

メリーランド州政府自然資源省

Maryland Department of Natural Resources
米国メリーランド州の自然資源を保全、保護、回復、強化することで、環境、社会、経済のための持続可能な未来を確保するためにリーダーシップを発揮している。



ライアン・キング氏

テキサス州 ベイラー大学
生物学部教授・大学院ディレクター

水生生態学者。米国環境保護庁、デューク大学、スミソニアン環境研究所、ノースカロライナ大学の研究員を歴任し、現在はベイラー大学教授（高度生態系データ分析、河川生態学、水性昆虫分類学、水性生物学など）。流域管理、環境数値基準の開発、データ解析の手法が専門で、複数のスケールでの土地利用が水生生態系に及ぼす影響について研究している。

ベイラー大学

Baylor University
1845年創立。テキサスが合衆国に加入する前の共和国時代に開校したバプティスト系大学。テキサスで最古の大学で、バプティスト系大学の中では全米最大規模。テキサス州ワコに735エーカーのキャンパスを構える。バプティストの教えを残しつつ、現在では総合大学に成長した。学生総数は約17,000人。



クリス・ビクラフト氏

アンダーウッド・アンド・アソシエーツ社

専門は河川復元の設計・施工、生きた海岸線 (Dynamic Living Shoreline) の設計・施工、動植物生息地の造成・復元、湿地の造成・復元他。生態系再生プロジェクトを予定通り、かつ予算内で完成させるため、施主、検査官、エンジニア、プロジェクト・パートナー、すべてのスタッフと協力する立場にある。

アンダーウッド・アンド・アソシエーツ社

Underwood & Associates
アンダーウッド&アソシエーツ社は、自然再生哲学に基づき、生態系を回復させることで、社会のニーズと環境保全を両立させることを使命としている。同社の設計・施工プロセスと自然を基盤としたアプローチは、真の意味での河川や湿地帯の回復と長期的な回復力を目指しており、コンクリート構造物を建設するのではなく、自然から得られるエネルギーを受け入れるアプローチ (Nature Based System/NBS) を導入している。



キース・ビンステッド氏

アンダーウッド・アンド・アソシエーツ社

河川流域専門の科学者で、河川の評価、現地調査、設計、エンジニアリングを担当し、生態系再生プロジェクトを支える業務に許可を与える立場。メリーランド州とワシントンDCの山麓地帯・海岸平野の河川の迅速かつ集中的な評価プロジェクトや、河川修復プロジェクトと防波堤を植物で覆う生きた水際プロジェクトのエンジニアリングと設計で豊富な経験を有する。

水循環や生態系プロセスに対する深い理解と設計・施工能力のあらゆる側面を統合し、劣化した生態系、湿地、河川、雨水システムを復元するための世界トップクラスのシステムを構築している。

河川水路の再生 (RSC)、ステップ・プール・ストーム・コンベヤンス/雨水を階段状にした水溜りに貯めて自然な状態で流す方法 (SPSC)、生きた海岸線のアプローチを考案し、チェサピーク湾流域をはじめ世界中の多くの地方、州政府、連邦政府機関によって採用されている。



小松正之氏

一般社団法人生態系総合研究所
代表理事

岩手県陸前高田市生まれ。米エール大学経営学修士・東京大学農学博士。ワシントン条約、国連食糧農業機関などの国際会議に数多く出席し、日本の漁業・捕鯨業の権利を守るために活躍。森と川と海と人の関係についての基本調査を実施。広田湾の海洋環境と栄養状態調査を実施。現在は米スミソニアン環境研究所との連携も含め、自然活用の水辺再生を大船渡湾、駿河湾、四万十川で広く調査・研究を実施中。

一般社団法人生態系総合研究所

Ecosystem Research Institute
地球環境保護と持続的な活用に貢献するため、生態系や環境の保護と持続性に関する大気・陸地・河川・湖沼・海洋及び人間活動の相互関連に関する総合的、専門・基本的な調査研究、また国内外の関係省庁、地方自治体、研究機関、さらには国際機関と連携・協力・意見交換を行なっている。